

家を建てる者たち

詩篇の127篇には、「家を建てる者」、「町を守る者」などが出てきますが、これは、大工さんの歌や、兵隊や守衛の歌でもなく、お父さんのためのものと考えられます。また「むなし」と3回言われますが、「主が家を建てるのでなければ」「主が町を守るのでなければ」という仮定を言っているのです。「主が家をいっしょに建ててくださるのだから、家を建てる者の働きはやりがいがある」「守る者の労苦はやりがいがある」と言っているようです。

1 結束力

家を建てるのには材料が必要です。石、コンクリート、木材、釘、ガラス、紙。でもどんな材料だけあっても、それらを使ってどんな家を作るといふ設計図がなければ、いつまでたっても家はできません。

家族を作るには、どんな材料がいるでしょうか。まずは、結束力です。神さまは結束力、リーダーシップをお父さんに与えました。お父さんと子どもは「お父さんの後についていきたい」と思っています。

「お前、誰のお陰で食べていけるんだ?」「誰が立って家に住んでいるんだ?」というふうなお父さんには、誰もついていきたくありません。それは強がりであり、脅しです。

「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし」と言える謙遜なお父さんにこそついていきたくありません。

創世記12章4節「アブラムは主がお告げになったとおりに出かけた。ロトも彼といっしょに出かけた」ロトだけではなくアブラムの妻も、その他のしもべたちもです。

「リーダーとは、人をリードする人のことである。ついていく人が誰もいないなら、その人はリードをしているのではない。散歩をしているだけだ」

アブラムの後に人がついていったのは、彼が神に従ったからです。「オレが主人だ」と自己主張するのではなく、「主イエス・キリストがこの家の主人だ」と告白するお父さんが必要です。

2 愛する

「主が町を守るのでなければ、守る者の見張りむなし」「主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる」

愛する者を守るのがお父さんの仕事です。建てた家は、外敵から守らねばなりません。愛することを苦手とする人がいるかもしれませんが、「分らない」と認めるのはすばらしいことです。分かっていると思ったら、人は学びません。

我が家では、食前の祈りは全員が手をつないでしています。スキンシップは大切だと考えているからです。子どもは「膝に座ってもいい?」「指相撲しよう」「腕にぶらさがりたい」などとやってきます。いろんな口実でタッチして来る

子に応えてやることも愛情です。それで、子どもは安心するようです。

愛するのにお金はかかりません。あるお父さんが、成人した息子娘たちに質問をしてみました。「子ども時代の一番の思い出は何だい?」

「デイズニールランドでしょうか。高いおもちゃででしょうか? 家族旅行でしょうか? いえ「お父さんとプロレスごっこをして、腹の皮がよじれるほど笑ったこと」だったそうです。お金も時間もかかっていません。

3 導く

方向性を与え、善悪を教え、価値観を教えることです。お父さんの行かせたい方向ではなく、神さまが導いている方向です。

「見よ。子どもたちは主の賜物、胎の実は報酬である。若い時の子らは、まさに勇士の手にある矢のようだ。」

多くの財産や土地を子どもに残せなくても、子どもが誇れるものを残せるなら、導いたことになります。

リンカーンに対し、公衆の面前でこう言った人がいました。「あなたの父親は、靴職人だったな」明らかに無礼な意図を持った発言でしたが、リンカーンは気分を害しませんでした。「父のことを思い出させてくれてありがとう」

父は、私の知る限り最高の靴職人でした。もし、皆さんが父から買った靴で修理の必要になったものがあれば、私のところに持って来てください。私が修理をさせていただきます。私には、父ほどの腕前はありませんが」

父親が誇りを持って仕事をしており、その誇りが息子にも伝わっていたことを示しています。お父さんはエープをよく導きました。

4 遣わす

矢筒のなかに子どもという矢を満たすのは、貯めておくためではなく、広い世界に放つためです。子どもたちが、自分自身の家を建てられるように育てます。遣わすのは、子どもの中に秘められた能力を信じることで

一人の娘は、留学しました。止める理由はありません。でも、向こうの人と結婚までするとは予想外でした。しぶしぶオーケーしました。寂しさはありますが、手放すのが父親の役目だと思います。

弓と弦が、矢をいつまでも手元に置いておくことはできません。また、張りつめたままでしたら、弦は切れ弓も役に立ちません。引き絞ったら、的に向けて放ってやらねば矢の目的は果たせません。

そういうわけで、父親の4大機能は、結束させる、愛する、導く、そして遣わすことです。完璧な父親などどこにもいません。アブラハムもイサクもヤコブもヨセフも、みな欠点の多い、失敗続きのお父さんでした。

神さまの手に握られた弓としての役割を果たしましょう。弦と弓がいつしよに勇士の手に握られるなら、神の矢を神の望む方向に放てます。

(前島常郎)